

道徳科指導案

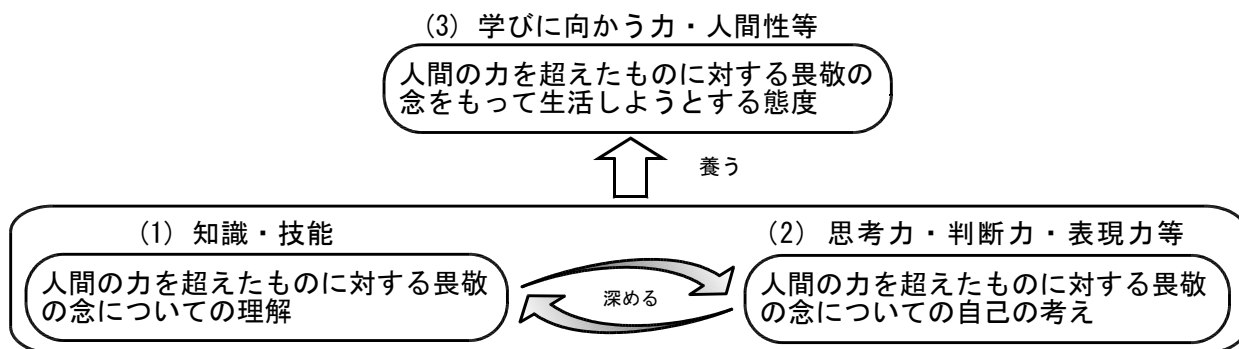
平成28年12月5日(月) 3校時 (5の1教室) 5年1組 指導者

I 主 題 遙かなるものへ

II 考 察

1 主題観

(1) 育まれる主な資質・能力とその関係



(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

D 主として自然や崇高なものとの関わりに関すること

21 感動，畏敬の念〔第5学年及び第6学年〕

美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと

(3) 主題や教材の価値

本主題では「感動，畏敬の念」の内容項目のうち，人間の力を超えたものに気付き，畏敬の念をもつことについて考える学習である。その価値は以下のとおりである。

人間の力を超えたものに気付き，畏敬の念をもつことは大切である。なぜなら，人間の力を超えたものに触れて畏敬の念をもつことは，人間としての自分の在り方を見つめ直すきっかけを得ることとなり，その後の人生をより豊かに過ごすことにつながるからである。

子どもたちは本来，美しいものを美しいと思う等素直に感動する心をもっている。現代の子どもたちは，自然を身近に感じにくい居住環境や，塾や習い事に通う多忙な生活様式等に伴い，星空を眺めたり色鮮やかな紅葉を見たりする等の人間の力を超えたものに触れる機会が減少している。このような子どもたちが，人間の力を超えたものに気付き，それらに畏敬の念をもつことについて考えることは，人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもって生活しようとする態度を養うことにつながる。

そこで，教材「星が光った」（光文書院）を使用する。教材の価値については，以下のとおりである。

子ども会のキャンプファイヤーに参加したぼくは，リーダーのおじさんから「地球の命の長さを1週間に例えるなら，人間はわずか3分間である」という話を聞き，夜空に思いを馳せる，と

いう内容である。

子どもたちは、地球が長い時間をかけて美しい星になったことや多様な生物を育てていることから、地球は人間の力を越えたものであることに気付くことができる。また、人間の在り方について語りかけるおじさんの姿から、大人も子どもも関係なく、人間と比べて地球は途方もなく偉大な存在であることに気付き、自分の人間としての在り方を見つめ直すきっかけを得ることができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「永久に美しきもの」での、人間の手の及ぶことのない宇宙の神秘や自然の摂理に感動する心に共感し、美しいものに対して素直に感動する心をもつことについて考える学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちはこれまでに、4年「美しいもの」において、人の心の清らかさや美しさに気付き、他者の喜びを自分の喜びとする心について考える学習をしてきた。この学習で明らかになった子どもたちの実態及び本主題を進めるにあたっての指導方針は、以下のとおりである。

- (1) 人の心の清らかさや美しさに気付き、他者の喜びを自分の喜びとする心を理解してきている。このような子どもたちが、人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもつことについて理解できるように、地球の偉大さを問う課題を設定する。
- (2) 人の心の清らかさや美しさに気付き、他者の喜びを自分の喜びとする心について、自分との関わりで、多面的・多角的に考えることができている。このような子どもたちが、人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもつことについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えられるように、「おじさん」の視点を提示し、自分とおじさんのそれぞれの気持ちの共通点や相違点を話し合う場を設定する。
- (3) よりよい生活を送るために、他者の喜びを自分の喜びとして生活しようとする態度を養ってきている。このような子どもたちが、人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもって生活しようとする態度を養えるように、学習したことを基に感想を記述する場を設定する。

Ⅲ 指導計画 ※Ⅲについては、別紙参照

Ⅳ 本時の学習

- 1 ねらい 友達の考えやおじさんの立場を基に地球の偉大さについて話し合うことを通して、人間の力を越えたものの存在に気付き、人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもって生活しようとする態度を養う。
- 2 準備 副読本（光文書院） 地球の写真 数直線
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 地球に対する自分の思いを発表し合い、課題「地球のすごいところはどこだろう」	○地球に対する自分の思いを自覚できるように、地球の偉大さについて問いかける。

をつかむ。

- ・地球は水や緑があるところがすごいよ。
- ・地球の命はすごく長くて、比べてみると人間は思った以上に短いね。
- ・友達が言ったきれいで大きな星ということだけでなく、地球のすごいところは他にもあると思ってきたよ。

2 地球の偉大さについて話し合う。

- ・約45億年もの長い時間をかけて、美しい星になったことがすごいと思うよ。
- ・確かに、たくさんの生物の住処としてすべてを受け入れていることに、ぐっとくるな。
- ・おじさんのような大人でも、子どものぼくたちと同じように、地球の命の長さや大きさに圧倒されたのかもしれないね。
- ・みんなの意見にあてはまる地球のすごいところは、人間にはどうすることもできないところだと思うよ。
- ・地球にはかなわないけど、人間が科学技術を発展させているのは地球に近づきたいからなんだろうな。

3 人間の力を超えたものを振り返り、感想を発表し合う。

- ・理科で見てきた流れる水はあんなに大きな石をたくさん運んでいて、わたしは足がすくむような気がしたよ。
- ・地球は当たり前存在だったから、特に意識したことがなかったけど、話し合っ地球のすごさがよくわかったよ。人間の力では生み出すことのできないものをたくさん受け入れているすごい存在だから、人間がむやみに壊してしまうのは許されないことだな。
- ・これからは、地球や自然のように人間の力ではどうすることもできない存在を大切に過ごしていきたいな。

○教材の内容を把握できるように、教材「星が光った」を読み、数直線を用いて地球と人間の命の長さを板書する。

○教材を読む前と後の自分の地球に対する思いのずれを明確にもてるように、教材を読む前と後の自分の地球に対する思いの変化を問いかける。

○課題に対する自分の考えを明確にできるように、ノートに記述するよう促す。

○課題に対する多様な考えを共有できるように、課題に対する考えを学級全体で発表するよう促す。

○地球に対する思いを多面的・多角的に見出せるように、「おじさんの立場」から地球の偉大さについて考えるよう促す。

○人間の力を超えたものの存在に気付けるように、課題に対する考えの共通点を問いかける。

○人間の力を超えたものに対する思いを自覚できるように、人間の力を超えたものの存在に気付いたことを基に、それらに対して自分が思うことを問いかける。

○これまでの人間の力を超えたものに関わる自己の生き方を自覚できるように、身の回りで人間の力を超えたものを見て心動かされた経験を問いかける。

○よりよい自己の生き方についての思いや願いを明確にできるように、学習したことを振り返って感想をノートに書くよう促す。

評価項目

人間の力を超えたものに対する畏敬の念について、自分との関わりで、多面的・多角的に考えたことを発言したり記述したりしている。〈発言・ノート〉

○人間の力を超えたものとの関わり方を考えて生活できるように、本時の取組を賞賛する。

指導計画（全1時間）

ねらい	<p>友達の考えやおじさんの立場を基に地球の偉大さについて話し合うことを通して、人間の力を超えたものの存在に気づき、人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもって生活しようとする態度を養う。</p>
教材	<p>星が光った（光文書院）</p>
主題 構成	<p>地球の偉大さについて、友達の考えや地球が人間の力を超えたものであることに気付いた上で人間の在り方について語りかけるおじさんの考えに目を向けて考え、地球は人間の力を超えたものであることに気づき、人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつことができるようにする。</p>
本時	<p>○地球の偉大さについて発表し合い、課題「地球のすごいところはどこだろう」をつかむ。 ○友達の考えとおじさんの考えに目を向けて、人間の力を超えたものに気づき、畏敬の念をもつことについて話し合う。 ○人間の力を超えたものを振り返り、感想を記述し、発表し合う。</p>
他の 教育 活動 との 関連	<ul style="list-style-type: none"> ・国語「紹介パンフレットをつくろう」における大造じいさんとガンから優れた描写を読み取る場面。 ・理科「流れる水の働きを調べよう」における現場学習で流れる水の働きを実感する場面。 ・行事「音楽鑑賞会・演劇鑑賞会」における人間の業を超えたものに触れる場面。